

若手アカデミー会議（第24期・第6回）議事録

開催日時：平成31年3月4日（月）13:00-15:30

開催場所：東京大学理学部3号館412室

出席者：（敬称略）岩崎渉、岩永理恵、岩村誠、遠藤良輔、大矢根綾子、川口慎介、川崎昭如、岸村顕広、塩見淳一郎、住井英二郎、田井明、高瀬堅吉、竹村仁美、土屋太祐、遠野雅徳、豊田光世、中西和嘉、中村征樹、西嶋一欽、新福洋子、埴淵知哉、小野悠、實藤和佳子（Skype）、高槻泰郎（Skype）、森章（Skype）、安田仁奈（Skype）、平田佐智子（Skype）

傍聴者：新宅博文

【議題】

（一）幹事団からの報告・審議、各分科会からの報告

- ・ 岸輝夫外務大臣科学技術顧問との意見交換（2018/10/29）について、新福副代表より資料に基づいて報告がなされた。特に、若手アカデミーの活動について紹介および意見交換を行ったほか、今後継続的に協力を行っていく方針であることが報告された。
- ・ International Network for Government Science Advice (INGSA) conference in Tokyo (2018/11/6-7) について、中西会員より資料に基づいて報告がなされた。特に、若手科学者・ポリシーメーカーのための科学的助言の能力構築ワークショップの概要について報告がなされた。
- ・ 「地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化ーシチズンサイエンスを通じた地方課題解決への取り組みー」（2018/12/1）について、高瀬幹事より資料に基づいて報告がなされた。
- ・ アジア学術会議（2018/12/5-7）について、岸村代表・西嶋会員より資料に基づいて報告がなされた。特に、今後の同会議の方向性についての報告および検討がなされた。
- ・ 日本学術会議 in 京都 第二部 分科会4 「若手研究者は科学・学術について何を考えているのか」（2018/12/22）について、新福副代表・西嶋会員より資料に基づいて報告がなされた。特に、地方学術会議開催の経緯および今後の方針についての報告および検討がなされた。
- ・ 「地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化ー地域を豊かにする学術：新国富を中心に学術の街づくりへの貢献を考える」（2019/1/15）について、岸村代表より資料に基づいて報告がなされた。特に、SDGsに関連して地方活性化と行政との連携に関する議論が展開された。
- ・ 「文部科学省科学技術イノベーション政策を担当する省内の若手職員を対象にした研

修会」(2018/12/27、2019/1/29) について、新福副代表・住井会員より報告がなされた。特に、若手行政官との交流の重要性や意義についての報告および検討がなされた。また、同研修会に対する若手アカデミー会員の協力に対する感謝が述べられた。

- ・ 「地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化ーシチズンサイエンスを通じた地方課題解決～市民と科学者が“つながる場”について考える～」(2019/3/2) について、岸村代表から資料に基づいて報告がなされた。特に、市民との密な交流がなされ、地域内・大学内での交流が盛んになる契機を得たことが報告された。
- ・ Gサイエンス学術会議(2019/3/25-26) について、新福副代表・岩崎幹事より、G7サミットへの学術からのインプットを目的とした会議である旨が紹介されるとともに、両名が代表派遣されることが報告された。
- ・ 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会について、岸村代表・新福副代表より、同分科会委員に両名が就任したことが報告された。関連して、2019/3/13に文部科学省で意見交換を行うことが報告され、協力依頼がなされた。
- ・ 石井香世子会員の若手アカデミー退会について、岸村代表より報告がなされ、承認された。
- ・ 若手アカデミーメンバーの任期規定について、新福副代表より現状、展望、改善案について報告がなされた。議論および投票の結果、若手アカデミーへの所属を終える時期を原則各期末とする改善案を提案することが承認された。また、新たな特任連携会員の募集について、新福副代表より募集方法および選考手続きの案が報告された。募集を行うことについては承認され、選考方法については継続審議となった。
- ・ 「学術の動向」について、岸村代表より報告がなされた。
- ・ 日本学術会議総会(2019/4/24) において、岸村代表より若手アカデミーの活動報告を行う旨が報告された。
- ・ シチズンサイエンスに関する一連の活動について、高瀬幹事より、若手アカデミーとして提言をまとめていく方向で進める旨が報告された。
- ・ 若手による学術の未来検討分科会の川口委員長より、日本学術会議公開シンポジウム「博士キャリアの可能性」(2018/10/27) の開催報告がなされた。特に、動画中継に関するノウハウを今後提供できる旨が報告された。また、現在行われている議論の紹介がなされた。
- ・ 若手科学者ネットワーク分科会の岩崎副委員長より、今年の若手科学者サミットは「若手科学者と研究費」を再びテーマとして10月に開催予定である旨、具体的な日程は講堂の予約を行う5～6月に決定する旨が報告された。また、形式はポスター、口頭発表、パネルディスカッションとし、口頭発表とポスターの位置づけについて今後検討する旨が報告された。さらに、より広く若手研究者の参画を得ることについての議論がなされた。
- ・ イノベーションに向けた社会連携分科会の高瀬副委員長より、学術の動向の特集「若

手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会連携」および関連するシンポジウムについての報告がなされた。今年度のシンポジウムについては検討中である旨が報告された。

- ・ 国際分科会の新福委員長より、前述の国際分科会関連の諸活動について改めて報告がなされた。さらに、国際化に伴う大学のインフラ整備の事例として、立命館アジア太平洋大学の事例が報告された。

(二) 科学者委員会、同各分科会からの報告

- ・ 科学者委員会について、岸村代表より資料に基づいて報告がなされた。特に、ゲノム編集分科会について参加希望があれば検討することが共有された。また研究評価分科会について、高瀬幹事より議論内容および今後の方向性について報告がなされた。今後、夏以降に分野別委員会の委員長あてに、各分野の研究評価の現状についてアンケートが実施される予定である旨が報告された。
- ・ 男女共同参画分科会について、新福副代表より公開シンポジウム「医療界における男女共同参画の推進と課題」(2018/10/26)の開催報告がなされた。また、アンケート検討小分科会について、埴淵会員から最近の活動について報告がなされた。
- ・ 学術体制分科会について、岩崎幹事より、平田会員からの委員の引継ぎが行われた旨が報告された。
- ・ 学協会連携分科会について、川口会員より報告が行われた。特に、提言「学協会に係る法人制度一運用の見直し、改善等について」が紹介されたとともに、小規模学会が法人格を持つことに関する諸問題についての検討が行われていることが報告された。
- ・ 研究計画・研究資金分科会について、大矢根会員より資料に基づいて報告がなされた。特に、マスタープラン2020の策定方針および策定までの今後の流れについて説明がなされた。
- ・ 学術と教育分科会について、西嶋会員より報告がなされた。特に、地方大学、人文社会系学問分野、職業訓練を主たる業務とした大学の今後の在り方について議論がなされていることが報告された。

(三) その他

- ・ 今後の総会の開催計画、地方活性化活動の計画について、岸村代表より、全体会議を8月または9月に開催予定であること、地方活性化活動については今後検討していくことが報告された。また、これまで、松山、岡山、弘前、福岡、京都でイベントが開催されてきたことを踏まえて、企画案についての協力依頼がなされた。
- ・ 24期若手アカデミーの今後の活動について、活発な議論がなされた。
- ・ 若手アカデミーピンバッジについて、新福副代表より、紹介および購入方法の説明がなされた。